

2012年2月29日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSR ビル

代表取締役社長 藤田正雄

TSR - Press Release

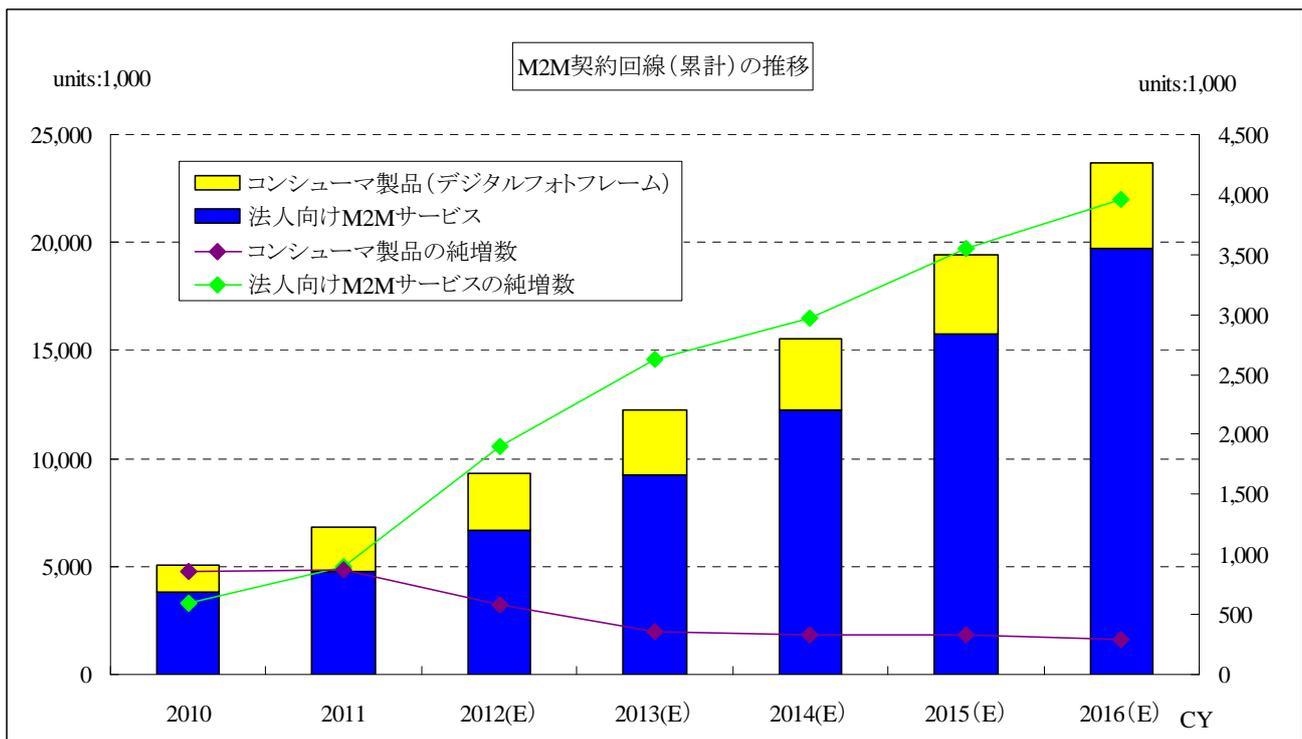
国内モバイルM2M市場は2016年に2,000万回線を突破する見通し

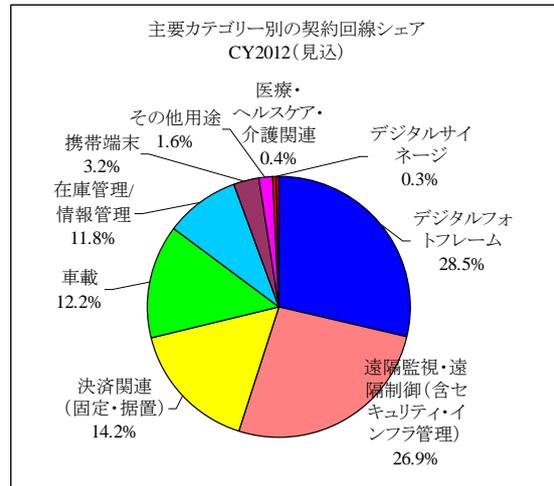
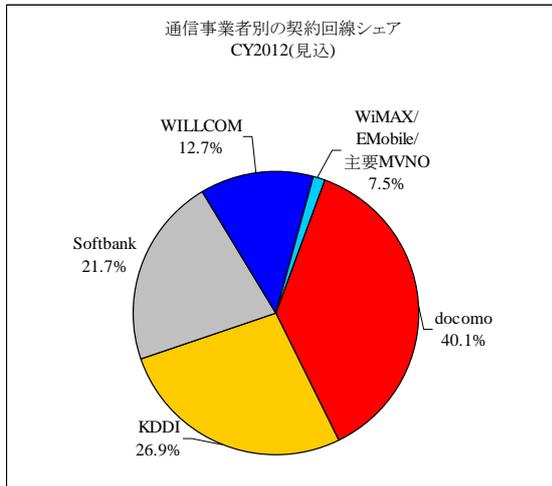
～ 電力管理、セキュリティ、フィールド管理、車載、決済データ通信などの需要が拡大 ～

株式会社テクノ・システム・リサーチは、国内における携帯電話やPHSなどのモバイル回線を利用したM2M (Machine to Machine) 市場 (あるいはIOT=Internet of Things 市場) に関する調査報告書『国内モバイルM2M市場動向調査』の2011年版を発売しました。

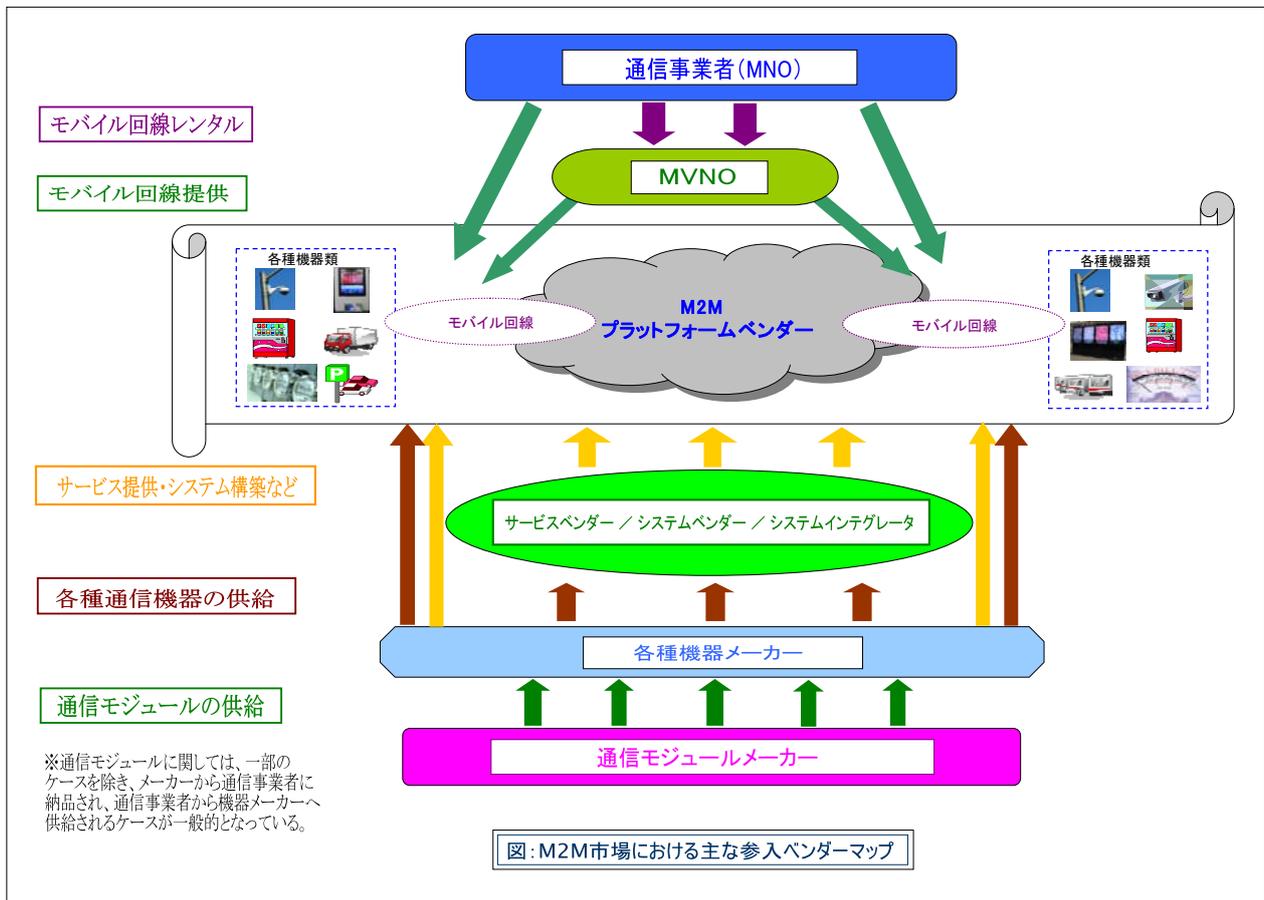
2011年末時点で、M2Mサービスで利用されているモバイル回線の契約数はおよそ680万件であり、2014年中に1,500万件台に達し、2015年中にモバイル回線全体の10%以上を占め、2016年の前半には2,000万件を突破する見通しである。

コンシューマ製品のデジタルフォトフレームの契約回線を除いた法人向けM2M市場において、契約回線数が最も多いのがセキュリティや電力監視・管理などを含めた遠隔監視の分野であり、法人市場全体の3分の1以上を占めている。遠隔監視用途は今後も需要が高まり、2016年には2010年時点の4.5倍近い契約回線規模になるものと予測される。次いで高いシェアを占めているのが、車両の位置情報や動態・運行管理といった車載向け用途や、電子マネーやクレジットカードなどの決済データ通信分野であり、いずれも市場の2割前後を占めている。とりわけ、車載用途は次世代自動車の普及と共に採用の伸びが期待され、2016年には2010年時点の7倍以上になるものと見込まれ、また、決済用途も7倍近い規模になるものと予測される。このほか、ハンディターミナルなどの携帯端末や医療・ヘルスケア・介護関連、デジタルサイネージなどの用途も回線数は少ないが、堅調に需要が伸びていく見通しである。





2011年は、多くのベンダーがM2Mに注目し始め、モバイル回線を利用したM2M市場でも、クラウドサービスを提供するM2Mプラットフォームベンダーや、MVNOやサービスベンダーなどの本格参加が目立った。通信事業者の動向に関しては、トップシェアのNTTドコモが契約回線数で伸び悩む一方で、KDDIが大幅に契約数を伸ばした。また、従来デジタルフォトフレームで契約を伸ばしていたSoftbankが徐々に法人向けで契約を獲得し始めるとともに、主要なMVNOもM2Mサービスで契約を伸ばし始めた。



【資料紹介】

『国内モバイル M2M 市場動向調査』は M2M 市場について、契約回線数ベースで通信事業者や通信モジュールメーカーをはじめとした市場参加ベンダーの動向のほか、M2M の利用カテゴリーを 9 つに分けて、各カテゴリーについての概況及び長期的な動向についてまとめております。

【プレスリリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ

第2グループ 戸波勝徳(tonami@t-s-r.co.jp) TEL:03-3866-4505